

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401230		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館		
所在地	愛知県名古屋市西区那古野1丁目20番30号		
自己評価作成日	平成30年 1月17日	評価結果市町村受理日	令和 2年 5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&amp;JivovsvoCd=2370401230-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&amp;JivovsvoCd=2370401230-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街の中のグループホームであることを活かして、いろいろな商店街のイベントに参加したり、毎月第一日曜日にみたらし団子を出店しています。共に参加し、入居者一人ひとりが地域の一員として生活ができるよう地域との交流の場が持てるきっかけ作りをしています。法人理念でもある「人生楽しく自分らしく」を実現していくため、利用者ひとりひとりの思いややりたいことをくみ取り、本人が主役となり生活していけるホームであり続けたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

下町情緒溢れる商店街の一角にあり、複合施設の3階4階に位置している。今年度、異動等による職員の入れ替わりがあり、管理者は新人育成に力を入れている。管理者は新人とベテランを組み合わせたシフトを組み、今年度5名の看取りにも、新人はパニック状態に陥らず、往診医・訪問看護師の協力を受けて乗り切った。管理者は、看取り時期には職員の配置を手厚くする等、利用者に寄り添い、安心して終末期を過ごせるように支援している。  
商店街の「ごえん市」に「みたらし団子」の店を出し、利用者が率先してテント張り、呼込み、団子焼き、タレをつける、売子等の役割りをこなしている。店先で馴染みの客と話をする等、地域住民との交流は利用者の楽しみや、やりがいになっており、毎月の「ごえん市」が待ち遠しい行事になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人生楽しく自分らしく」の理念を常に意識できるよう自分らしく生活するとは何かをユニット会議等で話し合い、支援につなげている。	理念の骨子である「楽しく自分らしく」を実現するために「利用者を知ることが基本」としており、職員一丸となって利用者の理解に取り組んでいる。生き甲斐や喜びとなる役割や場面を見出す支援が続いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街の中にある事を活かし、各イベントに参加し、みたらし団子売っている。ホームでのイベントに招待できるようにしている。地域の店に協力していただいたりして関係作りをしている。	商店街の一角に位置し、環境を活かした地域との関わりに力を入れている。毎月開かれる商店街の「ごえん市」への出店、幼稚園や複合施設との交流、サロンでの地域交流等、地域との交流には積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話をしているが、会議に出席されている方のみ理解していただいているのが現状。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開いて取り組みや現状報告を行っている。地域の方の意見を伺いながら協力体制の依頼も行っている。	利用者、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、併設老人ホームの住人等の参加を得て開催し、地域に対して「ホームで協力できることはないか？」との打診を続けており、地域貢献の拡大を図っている。	目標達成計画を公表し、随時進捗状況を報告、達成困難な項目については相談を持ちかけるなどの取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の方もホームに訪問があり、利用者の生活を伝えている。各種サロンの声掛けをし、ご家族様や民生委員様にも参加いただいている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員の出席があり、実情は随時、行政の窓口にも伝わっている。生活保護受給者を受け入れているため、区・保護係とは常に連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上夜間帯のみ玄関に施錠を行っているが、日中はどなたでも出入りが出来るようになっている。	ホームはビルの3・4階にあり、移動はエレベータ使用となるが、センサーが設置してあるだけで自由に行き来できる。帰宅願望の強い利用者には、GPS機器を持たせて安全を確保している。地域とは、何か問題があれば利用者を保護し、連絡が入ることもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、常日頃から職員間で注意を払い、虐待防止に努めている。学ぶ機会としては社内外の研修などに積極的に参加し、会議で情報を共有したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時にその方にとって必要性がある時には話し合いを持っている。必要な人には手続きを行い活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は不安や疑問点を伺い、わかりやすく説明し、理解納得していただくまで何度もお話をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時に意見等伺い、常日頃から利用者の思いや意見を日々のケアに活かせるように情報の共有を行っている。	毎年家族会を開催し、事前にアンケートを実施して意見・要望を集約している。寄せられた意見は職員と共有し、家族には対応策を示して理解を求めている。家族訪問時には極力声掛けをして意見を引き出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の個人面談や、ユニット会議から出た職員の意見をもって全体会議にて話し合い、運営に反映している。	職員は、管理者に自由に意見を言える雰囲気がある。管理者と職員との個人面談は中断しているが、職員からの意見・要望は真摯に採り入れている。職員の意見を採り入れ、廊下の手すり設置が完了した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営推進会議、全体会議、GH会議の設置にて職員個々の状況を把握し、目的、目標をもってケアに取り組めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修や、月1回の社内研修への参加を促している。希望者には専門研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区内での同業者で、コンソーシアムを月1回開催し、勉強会、研修会を行い意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動行動から不安や思いをくみ取る事から始め、出来るだけ本人の要望に近づける様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って思いをくみ取り、支援する事で信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合い、今必要としている支援やサービスを模索し、より良い支援につなげられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を中心とし、職員は日常生活の中で見守りを第一に考えている。入居者同士のかかわりも多く、職員の介入を最小限にとどめた支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方に住んでいるご家族も多いため、写真入りのたよりや、電話などで本人の様子を伝えている。また、家族が参加できるイベントを計画し、職員とも交流を深められるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の記憶や、家族様の情報を頼りに職員となじみの場所や、人に会いに行ったり関係継続すると共に、今まで知らなかった事を見つけるためにも、出来る事から情報収集を行っている。	ホーム周辺で生活した利用者も多く、近隣が馴染みの場所であり、関係継続の支援は日常的に行われている。婦人会・近所の仲間の訪問を受ける利用者もあり、思い出の場所や馴染みの店を訪ねている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関わりをまずは見守る事を第一と考えている。孤立している入居者に関しては声掛けなど間を取り持つような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々電話連絡などを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにより聞き取り、思いの把握に努めている。日常会話から本人の思いを引き出し、職員間で周知している。	「利用者を知る」を合言葉に、思いや生活歴等を分析して日々接している。利用者の会話や仕草から掴んだ意向は「ケア日誌」に正確(会話文で)に記し、全職員が理解・共有できるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話や行動から本人を知り、またご家族や友人からの情報でご本人の生活歴を把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムを尊重し、「出来る事」や、「～したい」という本人の意思で生活することができる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を尊重して作成している。毎日の生活の中で職員から出たアイデアや気づきを会議で話し合い作成や見直しに反映させるよう努めている。	利用者・家族からの意向や要望を聴き取り、介護計画を作成し、計画作成担当者が毎月モニタリングを行い、随時見直しをしている。サービス担当者会議を開催して職員の共有を図っている。	短期目標に、利用者の達成可能な具体的な目標を設定して、利用者・家族・職員が達成感を味わえる介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の言葉、行動、思いに常に耳を傾け、ありのままを記録し、職員間で情報の共有と支援の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者その時々ニーズに対応出来るよう、いろいろな社会資源の情報共有を行い、職員間で共有している。本人の「～したい」を尊重し、出来る限り添えるようにほかの事業者とも連携を取り協力をお願いできる様環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内、学区の一員として地域の住人や子供会老人会との交流を図りながら地域資源を増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得が得られたうえでつばめ在宅クリニックへの往診をお願いしている。また病院受診が必要な際も、本人や家族の希望を伺い、受診希望のある病院への連絡調整連携に努めている。	かかりつけ医の選択は自由である。協力医の月2回の往診や、2件の歯科往診もある。馴染みのかかりつけ医の受診は原則家族対応となっているが、臨機応変に職員が対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の巡回訪問時に連携を図り、身体の変化や気づきを相談し、適切な対応方法などのアドバイスをもらい、支援に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族主治医ワーカーとの情報交換を行い、本人の意向を尊重しながら医療機関と早期退院に向けて話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご本人や本人の希望を把握している。ホームの指針をもとに、その都度ご家族や本人、看護師、医師と相談しながら進めるようにしている。	今までに多くの看取り事例があり、利用者・家族の意向を確認しながら医師・訪問看護と連携して支援を行う体制が出来ている。看取り時期には職員を増員して支援を行い、終了後には振り返りを行って職員で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎回の会議で想定できる事故に対して、リスクマネジメントを行っている。また、急変時の対応については、看護師による研修に参加し、知識や対応方法について学ぶ機会を作り、実践力を身に付ける様に参加を促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。運営推進会議にて地域の方に参加いただき、どのように避難しているか見ていただいた。地域で災害が起きた時どうするまでしか話し合っていない。	複合施設と合同で、防災訓練を年2回(日中・夜間想定)実施しており、通報・初期消火・避難訓練をしている。地域住民の見学があり、「階段の両側に手すりがあると良いのでは」、「担架はどうか」等の意見があった。	地域の方々の見学は実施しているが、夜間の災害発生時には、地域の協力が不可欠であり、運営推進会議で地域の協力体制を構築することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対して、目上の人として尊敬の念をもって接し、言葉使いや声掛けにも留意している。また、一人ひとりの人格を否定する事なく支援していく事にも努めている。	利用者の呼称には「さん付け」を行い、利用者の人格や尊厳を大切にしている。個人情報取り扱いや、フロアで利用者の話をする時は、イニシャルや小さな声で話す等、プライバシー保護のための配慮がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや気持ちを表出しやすいような環境作りや声掛けを大切に、本人がわかりやすい言葉でより多くの選択肢を提供できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者その時その時の思いをくみ取り、個々のペースに合わせて支援する事に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に沿った衣替えを支援し、起床時入浴時に本人に服を選んでもらうよう支援している。またなじみの美容院や床屋にも同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食メニューは決まっておらず、その都度メニューと一緒に考え、買い物・調理・盛り付けも一緒に行っている。調理など行えない方は配膳・下膳・片付けなど出来る事を行っている。	食事場面が、利用者が力を発揮できる機会であることを職員は意識している。毎食、冷蔵庫の食材や利用者に食べたいものを聞いて、メニューを決めている。利用者は買い物や調理の一連の行為に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の少ない方は、主治医に相談し、栄養補給剤の処方や好きな飲み物を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守りが必要な入居者には毎食後の支援をしている。技師の洗浄、管理に関しても、必要に応じて支援している。また定期的に司会の訪問を受け口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄周期や習慣を職員間で共有し、本人のサインに気づき、さりげない声掛けや誘導を心掛けている。常にモニタリングを行い、トイレでの排泄に向けて支援をしている。	排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、定時や利用者一人ひとりに合わせた誘導をする等、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。介助に当たっては、羞恥心にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響について話し合い、理解に努めている。日々の食事に食物繊維を多くとり入れたり、水分を多く摂ってもらえるよう心掛けている。必要時には主治医に相談し、服薬によるコントロールをしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の生活リズムを尊重し、本人のペースで入浴してもらっている。	週3回の入浴を基本とし、入浴を拒否する利用者には、無理強いせず、日・時間を代える等して支援している。スライドチェアの導入により、重度の利用者にも対応が可能となった。こだわりシャンプー等の利用もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に留意し、一人一人に合わせた温度調整を行っている。日中も本人の生活に合わせ居室で休息したり、フローソファで休息していただいている。ベッドの位置や枕の高さにもここに合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての留意事項を主治医、薬剤師より説明を受けて職員間で周知している。また副作用に留意し、日々の様子を観察し、職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の「～したい」を大切に、本人の歴史や習慣を知り、出来ることを活かし喜びある生活を送るために支援していくように努めている。普段の会話から出た本人の希望や思いに沿うよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の「～行きたい」の希望に沿い、行きたい時に行ける様支援している。本人の希望がある時は、他事業者との連携を図り、遠方の畑への外周つの調整も行っている。	商店街にあるスーパーへの毎日の買い出しや散歩、喫茶店等に出かけている。いちご狩りやカラオケ、老人パスを使用して大須観音に出掛ける利用者もいる。GPSを持って1日に何回も家に帰りたいたいと外出する利用には、職員が後ろに付いて歩いている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族と話し合い、希望日に希望の金額を所持してもらっている。自己の管理が困難な方にも職員が見守り、支払いは出来るだけ本人にしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回写真をつけて手紙を送っている。入居者からの手紙の送付も行っていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは極力シンプルに物を置きすぎない様心掛けて入居者の動きやすさ、物の取りやすさなどに配慮したものになっている。常に清潔を保ち、玄関に花を飾り季節を感じられるようにしている。	華美な飾りや掲示物は少ない。整理整頓された清潔なリビングになっており、対面式の台所は死角がなく見守りしやすい環境である。3階ユニットは利用者同士が話し易い機の配列にしてあり、4階にはソファが置かれ、思い思いに食後を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも、ソファが離れた位置に一人でゆっくり座ってテレビや雑誌が読める様配慮している。また皆でくつろげるソファを置いてあり、思い思いに過ごせるよう配慮、工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具をより多く利用し、ご本人のこれまでの生活の継続が出来る様、使い慣れた配置をご自身で作っていただける様に支援している。	仏壇に仏飯を供えた居室、電気工事屋だった利用者が工具を持ち込んだ居室、猫好きな利用者のために家族が猫の壁紙を貼った居室等、安心できる場所作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具配置をはじめ、居室空間や居間や浴室など生活するうえで、本人がわかりやすさ、使いやすさに配慮したものになっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401230		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館		
所在地	愛知県名古屋市西区那古野1丁目20番30号		
自己評価作成日	平成30年 1月17日	評価結果市町村受理日	令和 2年 5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JivovsvoCd=2370401230-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JivovsvoCd=2370401230-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街の中のグループホームであることを活かして、いろいろな商店街のイベントに参加したり、毎月第一日曜日にみたらし団子を出店しています。共に参加し、入居者一人ひとりが地域の一員として生活ができるよう地域との交流の場が持てるきっかけ作りをしています。法人理念でもある「人生楽しく自分らしく」を実現していくため、利用者ひとりひとりの思いややりたいことをくみ取り、本人が主役となり生活していけるホームであり続けたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人生楽しく自分らしく」の理念を常に意識できるように自分らしく生活するとは何かをユニット会議等で話し合い、支援につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街の中にある事を活かし、各イベントに参加し、みたらし団子を売っている。ホームでのイベントに招待できるようにしている。地域の店に協力していただいたりして関係作りをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話をしているが、会議に出席されている方のみ理解していただいているのが現状。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開いて取り組みや現状報告を行っている。地域の方の意見を伺いながら協力体制の依頼も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の方もホームに訪問があり、利用者の生活を伝えている。各種サロンのへの声掛けをし、ご家族様や民生委員様にも参加いただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上夜間帯のみ玄関に施錠を行っているが、日中はどなたでも出入りが出来るようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、常日頃から職員間で注意を払い、虐待防止に努めている。学ぶ機会としては社内外の研修などに積極的に参加し、会議で情報を共有したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時にその方にとって必要性がある時には話し合いを持っている。必要な人には手続きを行い活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は不安や疑問点を伺い、わかりやすく説明し、理解納得していただくまで何度もお話をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時に意見等伺い、常日頃から利用者の思いや意見を日々のケアに活かせるように情報の共有を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の個人面談や、ユニット会議から出た職員の意見をもって全体会議にて話し合い、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営推進会議、全体会議、GH会議の設置にて職員個々の状況を把握し、目的、目標をもってケアに取り組めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修や、月1回の社内研修への参加を促している。希望者には専門研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区内での同業者で、コンソーシアムを月1回開催し、勉強会、研修会を行い意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動行動から不安や思いをくみ取る事から始め、出来るだけ本人の要望に近づける様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って思いをくみ取り、支援する事で信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合い、今必要としている支援やサービスを模索し、より良い支援につなげられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を中心とし、職員は日常生活の中で見守りを第一に考えている。入居者同士のかかわりも多く、職員の介入を最小限にとどめた支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方に住んでいるご家族も多いため、写真入りのたよりや、電話などで本人の様子を伝えている。また、家族が参加できるイベントを計画し、職員とも交流を深められるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の記憶や、家族様の情報を頼りに職員となじみの場所や、人に会いに行ったり関係継続すると共に、今まで知らなかった事を見つけるためにも、出来る事から情報収集を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関わりをまずは見守る事を第一と考えている。孤立している入居者に関しては声掛けなど間を取り持つような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々電話連絡などをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにより聞き取り、思いの把握に努めている。日常会話から本人の思いを引き出し、職員間で周知している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話や行動から本人を知り、またご家族や友人からの情報でご本人の生活歴を把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムを尊重し、「出来る事」や、「～したい」という本人の意思で生活することができる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を尊重して作成している。毎日の生活の中で職員から出たアイデアや気づきを会議で話し合い作成や見直しに反映させるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の言葉、行動、思いに常に耳を傾け、ありのままを記録し、職員間で情報の共有と支援の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者その時々ニーズに対応出来るよう、いろいろな社会資源の情報共有を行い、職員間で共有している。本人の「～したい」を尊重し、出来る限り添えるようにほかの事業者とも連携を取り協力をお願いできる様環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内、学区の一員として地域の住人や子供会老人会との交流を図りながら地域資源を増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得が得られたうえでつばめ在宅クリニックへの往診をお願いしている。また病院受診が必要な際も、本人や家族の希望を伺い、受診希望のある病院への連絡調整連携に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の巡回訪問時に連携を図り、身体の変化や気づきを相談し、適切な対応方法などのアドバイスをもらい、支援に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族主治医ワーカーとの情報交換を行い、本人の意向を尊重しながら医療機関と早期退院に向けて話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご本人や本人の希望を把握している。ホームの指針をもとに、その都度ご家族や本人、看護師、医師と相談しながら進めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎回の会議で想定できる事故に対して、リスクマネジメントを行っている。また、急変時の対応については、看護師による研修に参加し、知識や対応方法について学ぶ機会を作り、実践力を身に付ける様に参加を促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。運営推進会議にて地域の方に参加いただき、どのように避難しているか見ていただいた。地域で災害が起きた時どうするまでしか話し合えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対して、目上の人として尊敬の念をもって接し、言葉使いや声掛けにも留意している。また、一人ひとりの人格を否定する事なく支援していく事にも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや気持ちを表出しやすいような環境作りや声掛けを大切にし、本人がわかりやすい言葉でより多くの選択肢を提供できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者その時その時の思いをくみ取り、個々のペースに合わせて支援する事に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に沿った衣替えを支援し、起床時入浴時に本人に服を選んでもらうよう支援している。またなじみの美容院や床屋にも同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食メニューは決まっておらず、その都度メニューを一緒に考え、買い物・調理・盛り付けも一緒に行っている。調理など行えない方は配膳・下膳・片付けなど出来る事を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の少ない方は、主治医に相談し、栄養補給剤の処方や好きな飲み物を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守りが必要な入居者には毎食後の支援をしている。技師の洗浄、管理に関しても、必要に応じて支援している。また定期的に司会の訪問を受け口腔内の清潔保持に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄周期や習慣を職員間で共有し、本人のサインに気づき、さりげない声掛けや誘導を心掛けている。常にモニタリングを行い、トイレでの排泄に向けて支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響について話し合い、理解に努めている。日々の食事に食物繊維を多くとり入れたり、水分を多く摂ってもらえるよう心掛けている。必要時には主治医に相談し、服薬によるコントロールをしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の生活リズムを尊重し、本人のペースで入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に留意し、一人一人に合わせた温度調整を行っている。日中も本人の生活に合わせ居室で休息したり、フローソファーで休息していただいている。ベッドの位置や枕の高さにもここに合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての留意事項を主治医、薬剤師より説明を受けて職員間で周知している。また副作用に留意し、日々の様子を観察し、職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の「～したい」を大切に、本人の歴史や習慣を知り、出来ることを活かし喜びある生活を送るために支援していくように努めている。普段の会話から出た本人の希望や思いに沿うよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の「～行きたい」の希望に沿い、行きたい時に行ける様支援している。本人の希望がある時は、他事業者との連携を図り、遠方の畑への外周つの調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族と話し合い、希望日に希望の金額を所持してもらっている。自己の管理が困難な方にも職員が見守り、支払いは出来るだけ本人にしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回写真をつけて手紙を送っている。入居者からの手紙の送付も行っていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは極力シンプルに物を置きすぎない様心掛けているが入居者の動きやすさ、物の取りやすさなどに配慮したものになっている。常に清潔を保ち、玄関に花を飾り季節を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも、ソファが離れた位置に一人でゆっくり座ってテレビや雑誌が読める様配慮している。また皆でくつろげるソファを置いてあり、思い思いに過ごせるよう配慮、工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具をより多く利用し、ご本人の今までの生活の継続が出来る様、使い慣れた配置をご自身で作っていただける様に支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具配置をはじめ、居室空間や居間や浴室など生活するうえで、本人がわかりやすさ、使いやすさに配慮したものになっている。		